

2013年2月28日 全5頁

Indicators Update

1月鉱工業生産

市場予想をやや下回るが、生産は持ち直し

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年1月の生産指数は、前月比+1.0%となり、2ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス（同+1.5%）を下回ったものの、3ヶ月移動平均で見ても2ヶ月連続で上昇となり、先行きに関しても増産を見込んでいることから、生産は持ち直しつつあるといえる。
- 1月の生産を業種別に見ると、全16業種中、9業種が前月から上昇した。特にプラス寄与が大きかったのは、輸送機械工業、鉄鋼業、情報通信機械工業であり、昨日の時点で強めの生産計画を立てていた業種が、計画通り全体の生産を牽引した形となった。
- 製造工業生産予測調査によると、2013年2月の生産計画は前月比+5.3%、3月は同+0.3%となっており、生産は4ヶ月連続の増加を見込んでいる。2月に関しては、全業種が増産を見込んでいるが、特に情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業が高い伸びを見込んでいる。一方、これらの業種は3月には減産を見込んでいることから、3月の生産全体の伸びは2月から減速する見通しとなっている。2月、3月の生産が予測調査通りの結果となった場合、四半期ベースでは2013年1-3月期は前期比+5.9%と、4四半期ぶりの前期比増加となる見込みである。
- 生産と連動性の高い輸出数量の弱い動きが続くなかで、生産は持ち直しつつあるが、生産が安定的に増加するかどうかは、輸出の改善がカギとなる。海外経済の回復や、円安による価格競争力の改善といった外部環境の改善に鑑みると、輸出数量も増加に向かう公算が大きく、生産は増加傾向が続く公算である。

鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2012年							2013年 1月
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱工業生産	0.4	▲1.0	▲1.6	▲4.1	1.6	▲1.4	2.4	1.0
コンセンサス								1.5
DIR予想								1.0
生産者出荷	▲0.9	▲3.1	0.2	▲4.3	▲0.1	▲0.8	4.0	0.1
生産者在庫	▲1.2	2.9	▲1.6	▲0.9	▲0.1	▲1.2	▲1.2	▲0.5
生産者在庫率	4.2	3.7	▲2.3	4.2	▲2.1	▲0.3	▲0.6	▲3.7

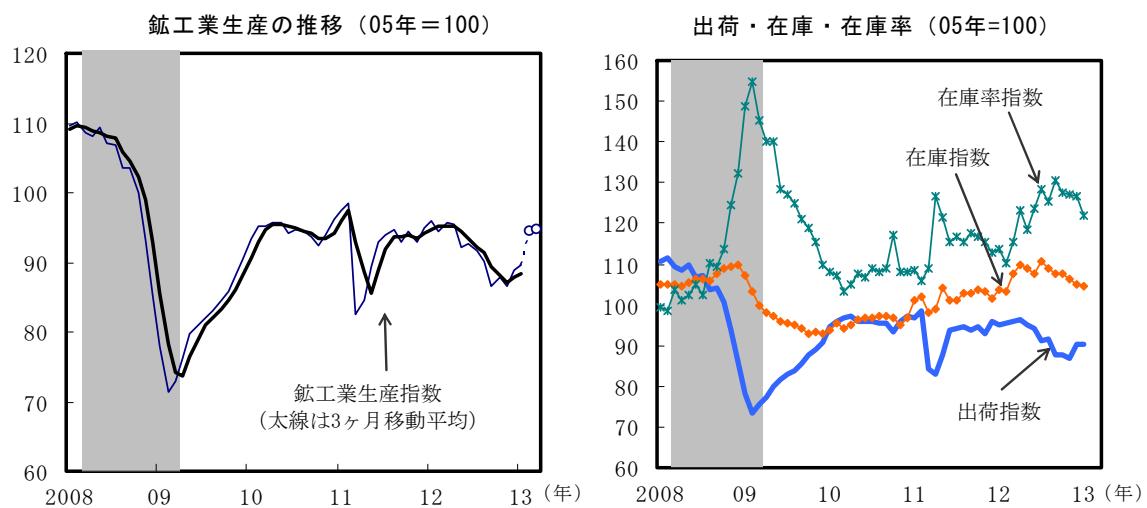
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は2ヶ月連続の上昇

2013年1月の生産指数は、前月比+1.0%となり、2ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス（同+1.5%）を下回ったものの、3ヶ月移動平均で見ても2ヶ月連続で上昇となり、先行きに関しても増産を見込んでいることから、生産は持ち直しつつあるといえる。出荷指数は前月比+0.1%と上昇し、在庫指数が同▲0.5%と低下したことから、在庫率指数は同▲3.7%と4ヶ月連続の低下（改善）となった。

生産・出荷・在庫の推移（季節調整値）



（注1）生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

（注2）シャドーは景気後退期。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

1月は概ね計画通りの動き、1-3月期は4四半期ぶりの前期比増加見込み

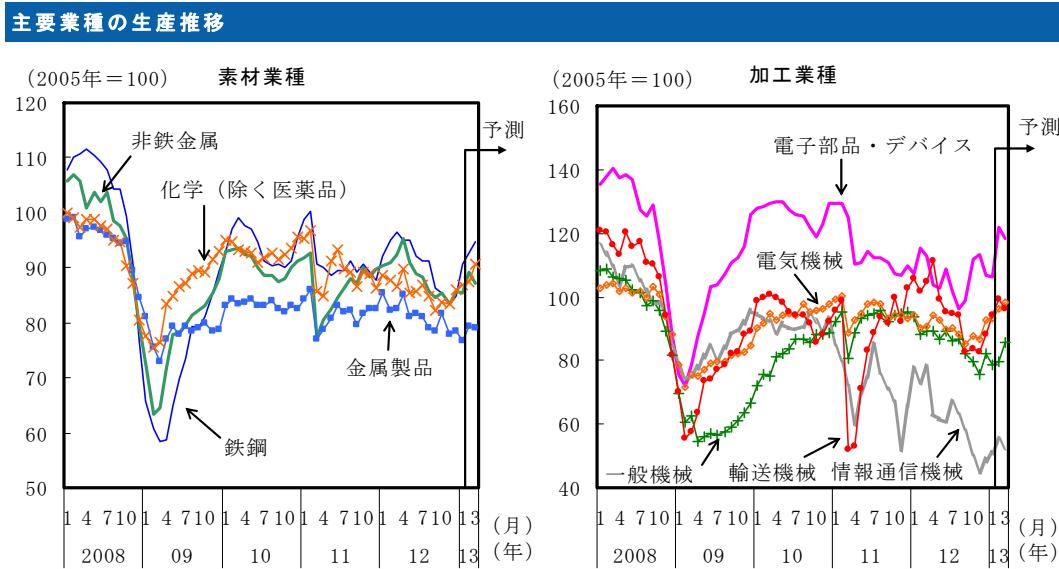
1月の生産を業種別に見ると、全16業種中、9業種が前月から上昇した。特にプラス寄与が大きかったのは、輸送機械工業、鉄鋼業、情報通信機械工業であり、昨月の時点で強めの生産計画を立てていた業種が、計画通り全体の生産を牽引した形となった。

輸送機械工業は前月比+6.8%と2ヶ月連続の上昇となった。エコカー補助金終了後に落ち込んだ国内新車販売が速やかに回復していることに加え、米国向けを中心に輸出向けも持ち直しつつある。鉄鋼業は前月比+6.6%と2ヶ月連続の上昇となった。国内生産の持ち直しを受けて、生産財の生産が増加したほか、復興需要を背景とした公共投資や底堅い住宅投資を背景に建設向けが増加した。情報通信機械工業は、「はん用コンピューター」、「カーナビゲーション」の増加により、前年比+4.8%と2ヶ月連続の増加となったが、前年比では▲33.9%となっており、依然低水準での推移が続いている。

一方、1月に生産が低下した業種に関して見ると、一般機械（前月比▲4.1%）の低下は概ね計画通りであったものの、金属製品工業（同▲2.2%）、電子部品・デバイス工業（同▲0.1%）が計画に反して低下した。

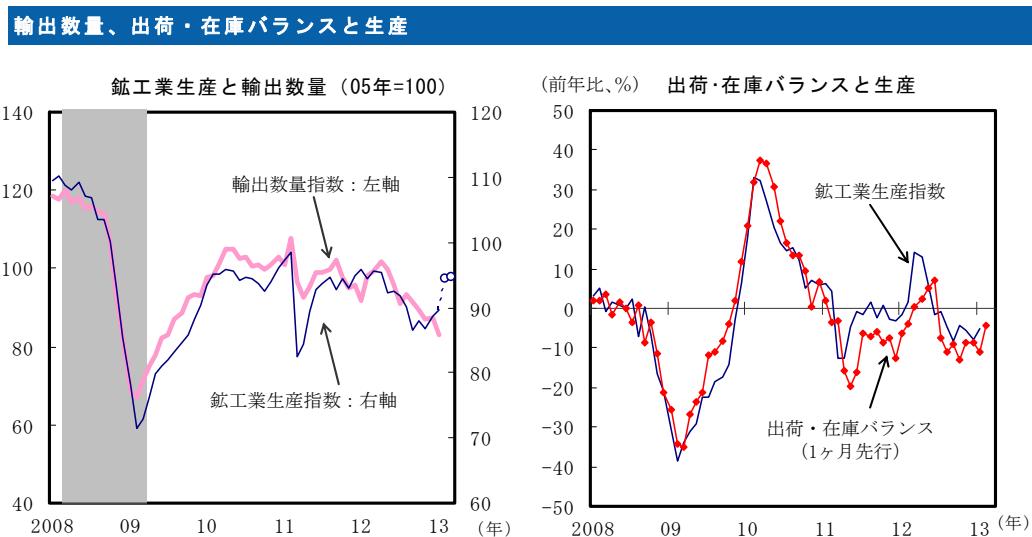
製造工業生産予測調査によると、2013年2月の生産計画は前月比+5.3%、3月は同+0.3%

となっており、生産は4ヶ月連続の増加を見込んでいる。2月に関しては、全業種が増産を見込んでいるが、特に情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業が高い伸びを見込んでいる。一方、これらの業種は3月には減産を見込んでいることから、3月の生産全体の伸びは2月から減速する見通しとなっている。2月、3月の生産が予測調査通りの結果となった場合、四半期ベースでは2013年1-3月期は前期比+5.9%と、4四半期ぶりの前期比増加となる見込みである。

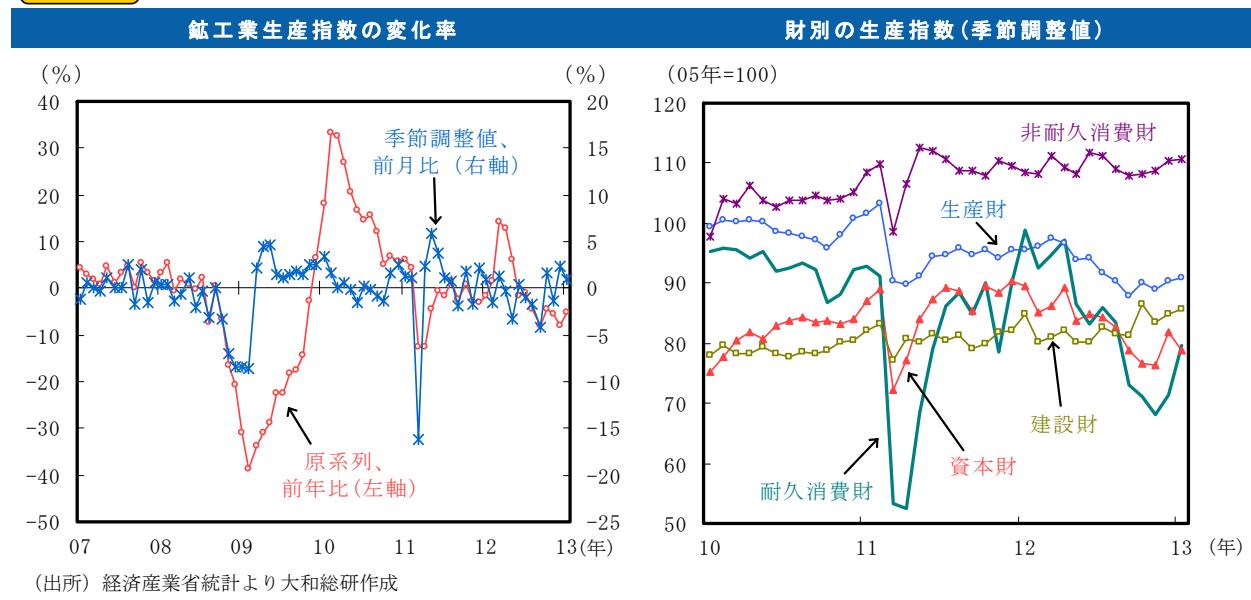


生産が増加傾向となるには輸出の改善がカギ

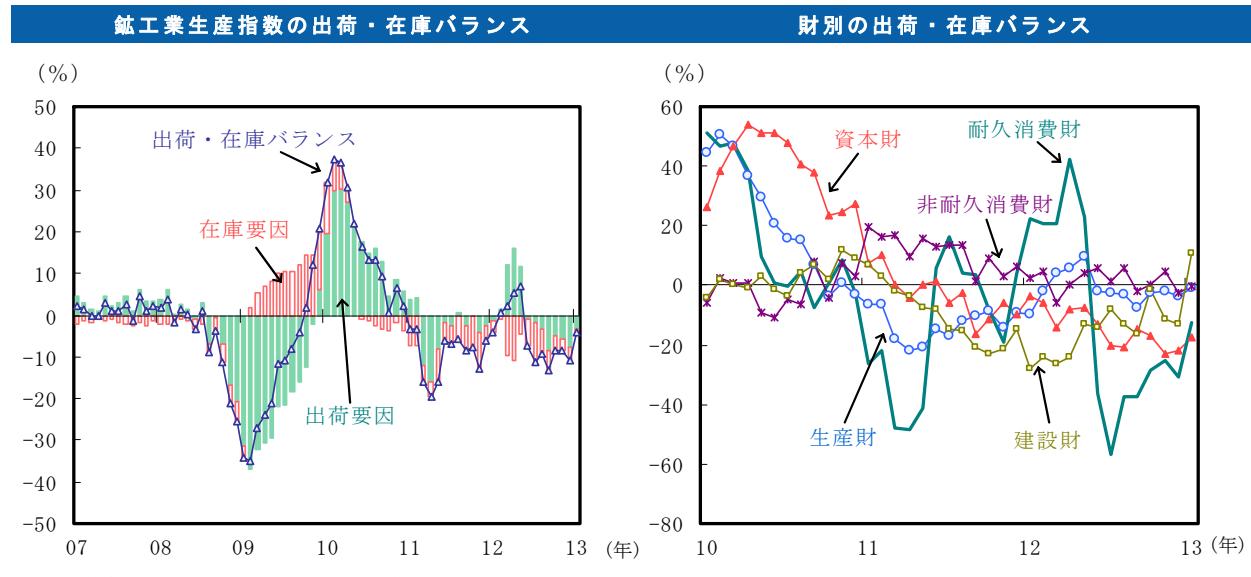
生産と連動性の高い輸出数量の弱い動きが続くなかで、生産は持ち直しつつあるが、生産が安定的に増加するかどうかは、輸出の改善がカギとなる。海外経済の回復や、円安による価格競争力の改善といった外部環境の改善に鑑みると、輸出数量も増加に向かう公算が大きく、生産は増加傾向が続く公算である。



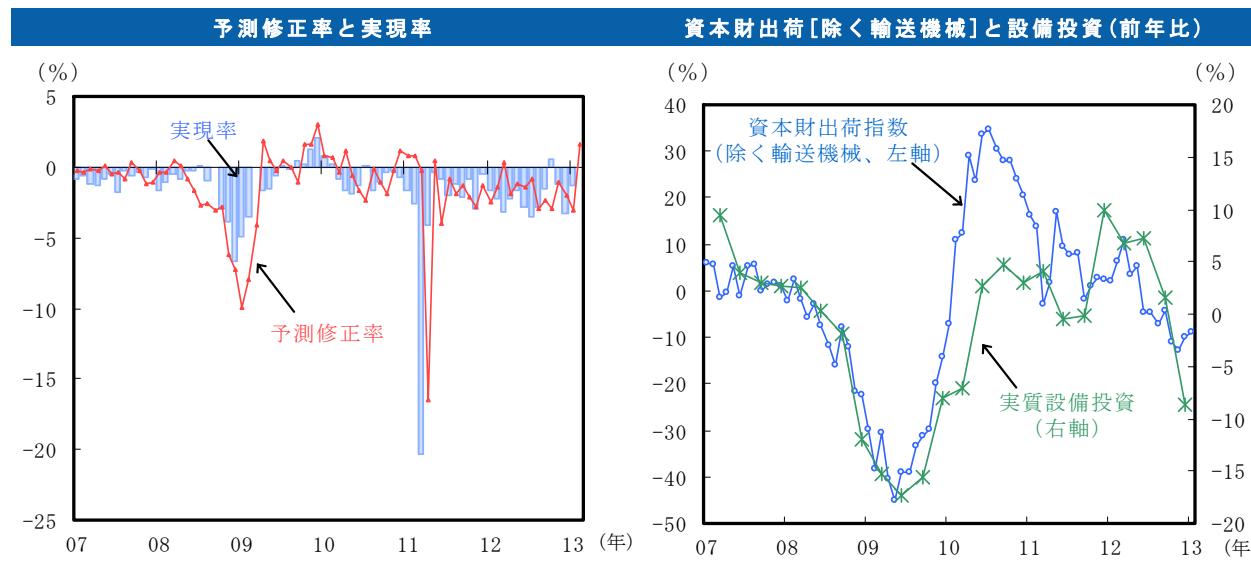
概況



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成



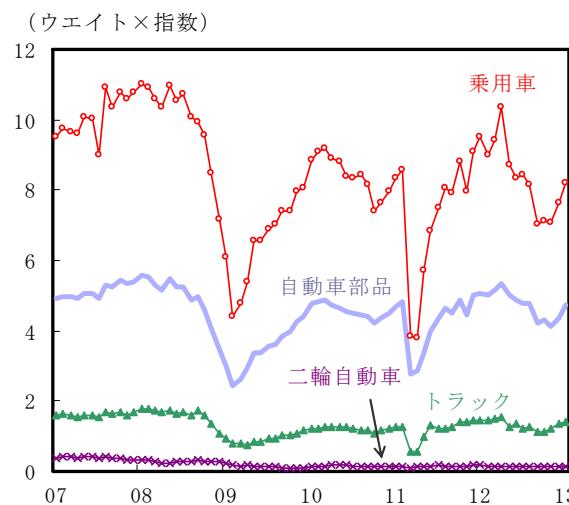
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成



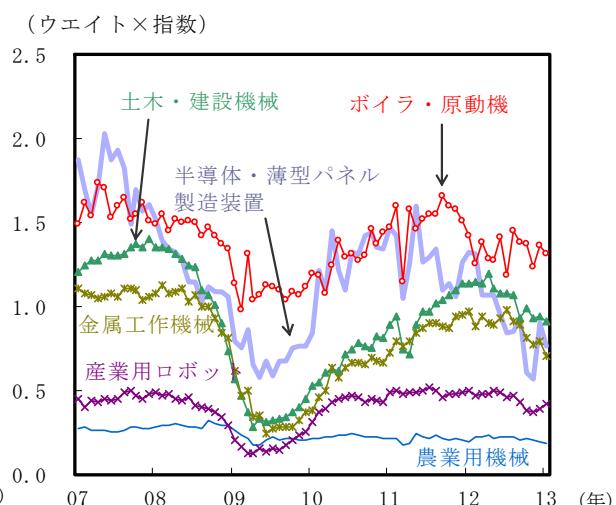
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

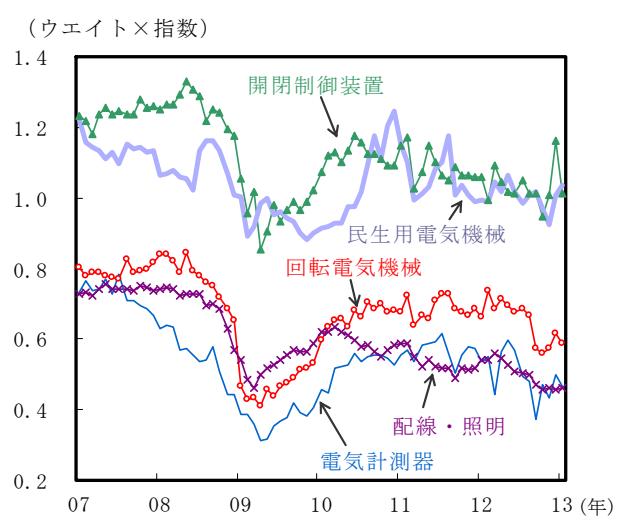
輸送機械



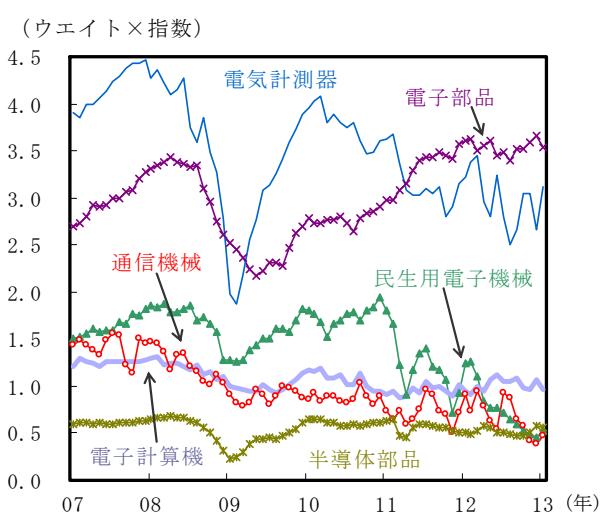
一般機械



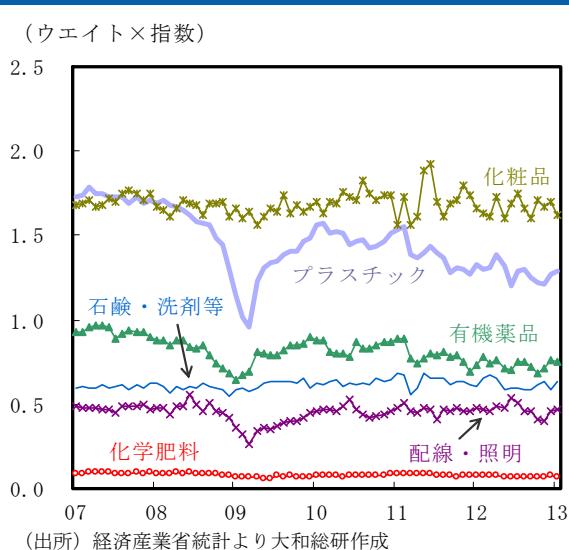
電気機械



電子部品・デバイス・情報通信



化学



鉄鋼・非鉄・金属

